

第1回ひむかレジデント道場開催



令和2年1月25日(土)に、第1回ひむかレジデント道場を開催しました。本会は「研修医が自ら宮崎の研修制度について考える」をテーマにした県内初の取り組みです。ファシリテーターは県内の研修基幹病院で活躍する卒後3年～10年目前後の若手医師14名に担当して頂きました。県内の研修医24名が集まり、宮崎県の研修制度に関わる2つのテーマについてワークショップを行い熱い議論が交わされました。さらに「Residents as Teachers(指導者としての研修医)」をテーマとしたロールプレイや4つのハンズオンセミナーも行い大盛況となりました!

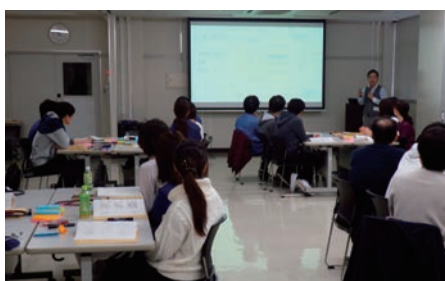


ワークショップ①

宮崎の研修の
良いところ?悪いところ?

宮崎の研修の良いところ?悪いところ?についてK-J法を用いて研修医が意見を出し合いました。

中でも、研修医の目線からみた良いところ(県内の病院にいる同期と仲がよい、年の近い先生が熱心)、悪いところ(人との距離が近すぎる問題、研修病院のカルテを統一すべき)が挙げられ、研修医や若手医師が共有できて非常に有意義な時間になりました。

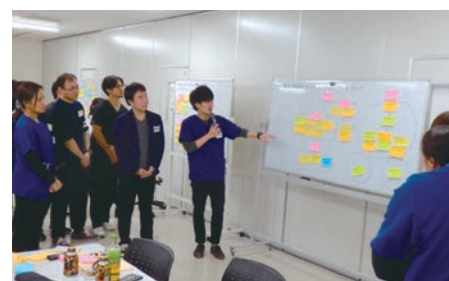


ロールプレイ

君ももうすぐ指導医!
どうやって後輩を教えるか?

古賀総合病院内科の松浦先生が5-microskillの講義を行い、その後研修医が3人1組になり、指導医役、研修医役、観察者に分かれてロールプレイを行いました。

5-microskillを意識したやり取りをすることで、研修医が指導者になる第一歩を踏み出したのではないかと思います!



ワークショップ②

よりよい研修生活
を送るには?

県立日南病院内科の早川先生が「どうすればデキレジになれる?」の講義を行い、ワークショップ①で抽出された、「県内の勉強会が少ない!改善したい!」という問題点や「慣れたところに研修が終わってしまう」という問題に対して研修医目線で解決案を出し合いました。他施設であっても県内の研修医が繋がっていきける方法があると良いなど参考になる意見が多数挙げられました。

ハンズオンセミナー



若手医師が講師となり4つのハンズオンセミナーを行いました。2つの座学「小児救急ことはじめ」、「研修で役立つ小ネタ集」と2つのスキルブース「気道管理アドバンス」、「誰でも使えるエコー! POCUS」を行いました。「One Team」を合言葉に研修医と若手医師が団結して学習に取り組みました!



最後に、集まって下さった若手医師の先生方、また古賀総合病院の松浦先生、県立日南病院の早川先生、県内の研修医のため、皆さんの後輩のために多大なるご協力を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。(宮崎市郡医師会病院救急科 長野)

各部門活動報告

●臨床医学教育部門：クリニカル・クラークシップI

症例シナリオに基づくバイタルサイン評価と初期対応実習



一昨年より『症例シナリオに基づくバイタルサイン評価と初期対応実習』を行っています。高性能患者シミュレータを用いて病棟や外来での急変症例（非心停止例）を再現し、学生が正しく心電図モニター

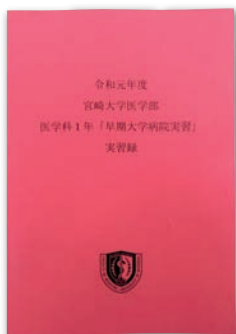
医療人育成支援センターでは、クリニカル・クラークシップIにおいて、模擬電子カルテを用いた医療安全実習、模擬患者による医療面接実習、心臓病患者シミュレータを用いた心音聴診実習に加えて、

を装着できれば心電図波形が、パルスオキシメータを装着できればSpO2値がといった具合に、実際のモニター画面に順次表示されます。

また、適切な重症度評価（初期/二次ABCD評価）と初期対応（酸素投与・輸液指示・薬剤選択など）が行われないと患者のバイタルサインがどんどん悪化するなど、かなり臨場感がある設定としています。この実習を行っている時、学生は机に座って本を見ながら鑑別診断を考える「静的臨床推論」はできても、目の前の患者状態が刻々と変化する中で、診断と対応を同時に進めていく「動的推論」には慣れていないことを実感します。シナリオ演習後、学生が自分たちの判断や対応の妥当性について、当事者意識を持って熱心に振り返り学習を行う姿が印象的です。

Post-CC OSCEでも実際に要求される内容ですので、今後より充実した形で続けていければと思っています。（小松）

令和元年度 医学科1年生「早期大学病院実習」実習録 を製作しました！



令和2年3月に、医療人育成支援センターと宮崎県地域医療支援機構の共同プロジェクトとして、令和元年度に宮崎大学医学部医学科1年生に行った「早期大学病院実習」（「講義編」（全8回）「実習編」「実施後アンケート」）を冊子としてまとめ学生や実習協力者等へ配布しました。

本学では、平成6年（1994年）から、医学科に入学したばかりの学生が医学部附属病院の各病棟で看護師とともに、夕方～翌朝の勤務を体験する教育プログラムを独自に実施してきました。

平成28年（2016年）から「体験実習」から「実習」へと名称を改め、単なる体験で終わらないよう、各医療職の役割と連携、患者接遇、医療安全管理、院内感染対策、バイタル評価など実習前の講義内容を充実させています。

学生もこの実習を通して、改めて医学部に入ったという自覚ができています。

実習アンケートの結果から、今後より充実した実習となるよう、関係者の皆様のご協力を得ながら取り組んでいきたいと思っております。

●看護実践教育部門：看護部研修

救急蘇生勉強会

令和元年度もシミュレーション教育推進のため、本院看護部と医療シミュレーション統括部門と共同し、救急蘇生勉強会を実施しました。



各部署の教育担当者と事前打ち合わせを行い、各部署で起こりうる急変事例を基にシナリオを作成し、演習を行いました。受講者より、「ベッド上やエアーマット上での胸骨圧迫を体験できてよ

かった」や「急変時の環境整備の必要性を改めて感じた」などの感想があり、部署の方との連携により実践の場を再現したことによる教育の効果が得られたと感じております。（釋迦野）



<救急蘇生勉強会実施部署>

1階東病棟、2階東病棟、3階西病棟、4階東病棟、4階西病棟、総合周産母子医療センター、5階西病棟、7階東病棟、7階西病棟、手術部

●医療シミュレーション教育統括部門：病院職員対象二次救急蘇生

研修医・救急看護師にICLS（二次救急）コース開催



医療シミュレーション教育統括部門としては、各種イベント（本学主催オープンキャンパスや本院主催ブラックジャックセミナーなど）の協力とともに、4月から中断していました全職員を

対象としたBLS（一次蘇生）講習会を10月より再開しました。

本年は、令和2年1月12日（日）に、本院で研修中の研修医7名および救命センター看護師3名に、ICLS（二次救命）コースを開催しました。

前半（午前）は、座学とBLS・モニタ付き除細動器の扱い方・気道管理、後半（午後）は、ALS（二次蘇生）・アナフィラキシーへの対応等を行いました。

それにより、より専門的知識技術の習得や、復職に向けた不安の低減、復職に対するイメージの具体化を図ることができたのではないかと思います。

令和2年はガイドライン改定の年でもあり、引き続き定期的な最新情報の啓蒙に努める予定です。（遠藤）



●医療人キャリア支援部門：復職支援

「発熱」「嘔吐」をテーマに講義やシナリオトレーニング



令和元年11月8日・29日、臨床技術トレーニングセンターにて、第9回女性医師・看護師のための復職支援プロジェクトを開催いたしました。

本年は、『発熱』『嘔吐』の2つの症

状をテーマに挙げ、テーマごとに講義、演習、シナリオトレーニングを実施しました。今回初の試みとして、各機関との連携を図り、本院の感染制御部による「専門的知識に基づいた吐物処理方法を学ぶ演習」や、宮崎県看護協会による「復職についてのミニ相談会」を企画し、よ

り充実した研修内容になるよう創意を加えました。

それにより、より専門的知識技術の習得や、復職に向けた不安の低減、復職に対するイメージの具体化を図ることができたのではないかと思います。

2日間で延べ12人の参加があり、受講者からは「新しい知識を得ることができた」「現状の医療・看護場面の雰囲気を感じた」といった、復職後の自己イメージを高めるひとつの機会になったとの意見をいただきました。（加藤）



臨床研修病院選びはお早めに!!

臨床実習中の医学生と将来像について話し合う機会があります。既に自分の進む道が決まっている学生もいれば、診療科を回るたびに興味が変わる学生もいるようです。かつては医師免許取得後医局に入局さえすれば自ずとそれぞれのキャリアが形成されましたが、現代ではそうもいきません。

まず研修先を決める必要がありますが、マッチングの参加登録期間を把握していない学生が意外にも多いように感じます。令和2年は6月11日（木）から8月6日（木）までとなっています。「締め切りを過ぎてからの手続き、登録等は一切できません。ご注意ください！」と明記されています。「うっかり」で自分の人生が変わってしまうかもしれませんので本当に注意してください。

研修したい病院を決めるには十分な情報収集が必要ですが、その行動期間は主に5年生までの間です。6年生になって慌てないようにしましょう。今年はCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響で春休みに予定していた病院見学がキャンセルになった学生もいると思います。誰にも予想できなかった事態であり、個人でどうにかできる問題でもありません。収束の見通しが立っていない状況では見学以外の情報のみでマッチングに臨む可能性も考えておきましょう。

医師生活のスタートラインに納得して立てるよう準備を進めましょう。（医療人キャリア支援部門長 船元）

●【宮崎地域医療支援機構大学分室だより】

令和元年度地域枠・地域特別枠学生 全体ミーティング及び講演会開催



令和元年12月2日(月)、医学科1年生～6年生の地域枠・地域特別枠学生を対象とした全体ミーティング及び講演会が行われました。

はじめに、宮崎県地域医療支援機構大学分室長の小松先生から地域枠入試制度をめぐる全国と宮崎の経緯と現状について講演があり、会の後半では宮崎県キャリア形成プログラムについて小松先生と県医療薬務課の藤元さんから説明がありました。大学分室の教員及び事務と地域枠・地域特別枠各学年リーダーの紹介・挨拶もあり、皆さんと顔合わせができて良かったです。

今後、大学分室が地域枠・地域特別枠学生の相談窓口として周知され、気軽に相談に来てもらえるようになればと思います。(野田)

地域枠・地域特別枠学生個別面談開始



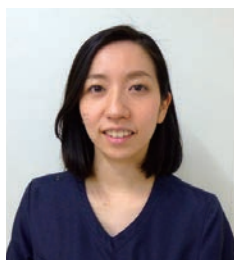
令和元年12月から令和2年2月にかけて地域枠、地域特別枠で入学しました5年生に対して、個別面談を行いました。

この個別面談は、キャリア形成プログラムに対する、ひとりひとりの不安な点、よく分からない点、要望などを確認し、少しでも解決していくことを目的としており、学生からの要望などは必要に応じて、県、大学等と協議していきます。

現在、学生の皆さんは、医師になってからどのようなキャリアが一般的なのか、自分の考えているキャリアプランが可能なのかという不安があると思います。それぞれ考えているキャリアプランも異なるため、今後も順次面談を進めていく予定です。

皆さんの将来に対する不安が少しでも解消できるよう努めていきますので、何かありましたらいつでもご相談ください。(黒木)

● 新任教員紹介



臨床医学教育部門

助教 **中村 佳菜子**

(宮崎県地域医療支援機構大学分室兼任医師)

2020年4月より医療人育成支援センターに配属となりました中村佳菜子です。宮崎出身で、宮崎大宮高校を卒業後、地域枠推薦で宮崎大学に入学しました。

卒後は、母校での初期臨床研修を経て、現在消化器内科で勤務しています。私生活では一児の母として日々奮闘中です。地元宮崎の医療に貢献できるよう精進するとともに、後輩達の良き相談役になればと思っています。これからよろしくお願ひ致します。

医療人育成支援センターホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryoujin/>

医療人育成支援センターFacebook

<https://ja-jp.facebook.com/iryoujinikusei/>



《HP》



《facebook》

宮崎大学医学部医療人育成支援センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:ikyoku@med.miyazaki-u.ac.jp